

平成 27 年度第 1 回岩倉市教育振興基本計画推進委員会議事録

1 日時 平成 27 年 10 月 6 日 (火) 午前 10 時～正午

2 場所 市役所 第 1 委員会室

3 出席者

愛知教育大学教授・附属名古屋小学校長	土屋 武志
岐阜大学地域協学センター長・教授	益川 浩一
岩倉南小学校 P T A 会長	野崎 要
南部中学校 P T A 会長	横井 孝次
曾野小学校長	村瀬 とみ子
南部中学校長	高橋 宏滋
特別支援担当教諭 (岩倉東小学校)	奥村 寿英
日本語・ポルトガル語適応指導教室室長 (曾野小学校)	村瀬 英昭
学校栄養職員 (岩倉北小学校)	金成 淳子
音楽担当教諭 (岩倉中学校)	熊木 夕子
体育担当教諭 (南部中学校)	鬼頭 功一
文化財保護委員会 委員長	中山 春義
文化協会 副会長	青木 豊
婦人会 会長	寺澤 陽子
社会教育委員の会議 委員長	内藤 和子
図書館協議会 副会長	小杉 美智子
体育協会 理事長	永井 可元
スポーツ少年団 本部長	今井 秀明
スポーツ推進委員 委員長	武藤 栄司
岩倉幼稚園 園長	町田 竜介

(事務局)

教育こども未来部長	山田 日出雄
学校教育課長	石川 文子
管理指導主事	有尾 幸市
学校教育グループ長	今枝 かづき
生涯学習課長	片岡 和浩
生涯学習グループ長	中野 高歳
スポーツグループ長	木村 伸佳

(計画策定支援業務受託者)

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所	江口 陽子
	土屋 志衣乃

(傍聴者)

1名

4 会議内容

午前 11 時 開会

(開会)

○事務局

皆様、おはようございます。

本日は、1名欠席、1名遅刻の連絡をいただいております。それ以外の方はお揃いですので、定刻前ですが、これより第1回岩倉市教育振興基本計画推進委員会を開会させていただきます。

委員の皆さまにおかれましては、ご多忙のところ、ご出席を賜り誠にありがとうございます。また、推進委員会の委員をお引き受けいただき、重ねてお礼を申し上げます。

本日、進行を務めさせていただきます学校教育課長の石川でございます。どうぞ、よろしくお願いたします。なお、本日の会議において、市議会の厚生・文教委員会の委員長から傍聴の希望がございました。会議は公開で行わせていただきますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、お手元に配布いたしました次第に沿って、進めてまいります。

配布資料の確認

委嘱状の交付

○事務局

続きまして、岩倉市教育委員会教育長の長屋勝彦よりごあいさつを申し上げます。

(学校教育長あいさつ)

○学校教育長

おはようございます。朝晩も随分涼しくなり、秋の気配を感じられるようになってまいりました。岩倉市教育振興基本計画推進委員会にお集まりいただき、ありがとうございます。委嘱状については、本来は、お一人ずつに思いを込め、お礼を言いながらお渡しさせていただきたかったのですが、時間の関係で机上に置かせていただきました。ご了承いただきたく思います。

話が変わりますが、皆さまご存知の通り、小中学校には学習指導要領というものがございます。高校は高等学校学習指導要領、幼稚園であれば幼稚園指導要領、保育園には厚生労働省の保育指針などがあり、5年先、10年先の子どもたちを描きながら、また見越しながら計画を立てていきます。現行の小中学校の学習指導要領は、小学校は23年度に本格実施をして5年目、中学校では24年度に本格実施をして4年目になります。まだ、中間点に差し掛かるかどうかのところですが、文部科学省では、すでに次の学習指導要領の策定を始めつつあり、4、5年先から10年先の子どもたちをどうしていくかという計画をしているところです。5年、10年、15年先の子どもの

姿を思い描きながら教育活動をしていくことに大切な意味があり、それを見越した指導要領を策定しています。

岩倉市でも、今回新たに改定も含めて、教育振興基本計画を策定することになりました。今年度と来年度の2年間をかけ、10年先の岩倉市の子どもたちを描きながら策定していくこととなります。岩倉市には岩倉市教育プランという計画書があります。3、4年を1つのスパンにしたプランです。その中で「子どもは未来のまちづくりびと」ということを大切にしています。岩倉市を背負って立つ子どもたちを大事にしていこうという思いは、計画を改定しても常に持ち続けてまいりました。その精神を大事にしながら、今回の基本計画も策定していきたいと思っております。また、私自身がいつも思い描くのは、やさしさにあふれる素敵なまちづくりをしていきたいということです。学校を卒業していく子どもたちが、最終的には岩倉市を支えて、やさしい素敵なまちになればいいなと思っております。今回の基本計画の策定に当たり、市民アンケートも行いながら、たくさんの声を聞き、そして、また、ここにいらっしゃる皆さま方の英知を集め、計画を策定していきたいと思っております。2年間お世話をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(委員自己紹介)

(事務局、委託業者自己紹介)

(委員長、副委員長の選任)

事務局より愛知教育大学教授・附属名古屋小学校長の土屋委員を委員長に、岐阜大学地域協学センター長・教授の益川委員を副委員長に提案。承認された。

○事務局

では、次第6の議題より、土屋委員長に進行をお願いしたいと思っておりますが、まずは委員長、副委員長から改めてごあいさつをいただいた上で、議事を進めていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

(委員長あいさつ)

○委員長

委員長を務めさせていただきます愛知教育大学の土屋と申します。4月から名古屋の附属小学校の校長も兼務していますので、子どもと会うことが増え、小学生や中学生が非常に身近な存在になりました。大学の勤務もあり、先ほどまで子どもを相手にしていたのが、今度は大学生や大学院生の相手となるため、半分ずつ頭を切り替えるのが難しく、移動の車の中で苦勞しております。

岩倉市の教育振興基本計画には、子どもの教育だけではなく、大人の生涯学習についても盛り込まれています。岩倉市の子どもたち、大人たちの教育に関わる計画の策定に参加させていただくことを、非常に嬉しく思っております。

私は、色々なまちに行く機会があると、市役所を訪ねます。岩倉市の市役所は、入った瞬間、

非常に明るく緑があることに驚きました。トイレの中にも植物が飾られていました。市役所がこのような環境であるということは、市民の皆さんの心にも潤いがあるまちに違いないという印象を受けました。市の計画と一緒に策定させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○副委員長

改めまして、岐阜大学よりまいりました益川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。私は教育学が専門で、特に学校以外の社会において行われる社会教育や、生涯学習などの研究をしております。また、聞き慣れない言葉かもしれませんが、地域協学センターのセンター長を拝命しております。岐阜大学は地域に立脚する大学、地域の課題解決に資する大学として、地域協学センターが地域と大学をつなぐ窓口となっています。

今回の教育振興基本計画についても、国の計画の中では、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」が大きな課題であり、地域社会の中核となる高等教育機関の推進として、COC事業を進めていくことになっております。その事業の中核となるのが、岐阜大学においては地域協学センターになります。地域に溶け込む大学を目指して、仕事をしているところでございます。

私は、岩倉市さんには総合計画の策定の際にも、大変お世話になりました。また、放課後子ども総合プランでも委員として関わらせてもらっております。非常になじみ深い自治体の一つです。岐阜大学に勤務しておりますが、私は一宮市に住んでおり、距離的にも大変近いです。また、元々は三重県の出身であり、北川正恭県政の際には三重県庁の職員をしておりました。現在、岐阜県庁にも非常勤特別職として生涯学習社会教育政策官として勤務しております。ぜひとも、皆さま方にご指導いただきながら、進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(協議事項)

(1) 岩倉市教育振興基本計画について

○委員長

では、次第に沿って進行します。議題(1)「岩倉市教育振興基本計画について」事務局から、説明をお願いします。

資料2「岩倉市教育振興基本計画について」事務局より説明

○委員長

議題(1)についてご説明いただきましたが、ご質問やご意見はありますでしょうか。

○副委員長

総合教育会議なども開きながら、行政と教育委員会が一体となって進められると思います。今、地方創生の絡みで総合戦略をつくられていると思いますが、その辺りも視野に入れて進められると考えてよろしいでしょうか。

○事務局

現在、岩倉市でも総合戦略の策定を進めているところです。教育の分野に関しても、少子化対策については大きく取り上げられると思います。まだ未確定ですが、総合計画の中でも子育て世代の移住や定住を目指すことを掲げています。少子化対策は、一つの柱になってくると考えております。総合戦略は、今年度中に策定するため、来年度の教育振興計画の策定の際には反映していけるのではないかと思います。

○委員長

岩倉市は、人口減少について気にされているのでしょうか。

○事務局

平成22年の前回の国勢調査の際には、愛知県全体の人口はまだまだ右肩上がりでした。しかし、岩倉市は、この辺りでも早めに人口が減少に転じたまちです。岩倉市は外国人の方が多いまちであり、平成21年のリーマンショックの後に帰国された方が多かったため、そこで大きく人口が減少したと考えています。岩倉市と同じように人口減少が大きかったのは、尾張区では2、3市でした。それ以降、人口が大きく減ることはありませんが、大きく増えることもありません。小さなまちのため、人口減少は大きな課題だと考えております。先ほども申しましたように、少子化対策のために、子育て世代にスポットを当てていきたいと思っています。特に今の市長は、マニフェストの中でも「子育て世代住みたいまちNO.1」を掲げています。子育て世代の移住により、まちの賑わいづくりにつなげたいという狙いもあります。具体的に、就学前のお子さんの保育については、定員枠の拡大などで対応しています。

○委員長

そのような意味では、今回策定する教育振興基本計画は、市として非常に重要な位置づけになってくるのではないかと思います。

では、何かご意見などはございませんか。

○委員

アンケートについてお聞きしたいのですが、小学5年生と中学2年生に実施した根拠はあるのでしょうか。全学年にアンケートを実施したとしても、岩倉市ではそれほど多い数ではないと思います。

○事務局

アンケートの考え方は色々あると思いますが、お子さんが自分たちで考えて回答できることを目安にしています。全てのお子さんを対象にするのも一つの方法ですが、抽出的に調査する方法もあります。別の計画の策定の際にも、中学2年生だけを対象にアンケートを実施したことがあります。小学生の中の考え方、中学生の中の考え方を把握し、学校の先生方も委員に入っているのので、委員会の中で補完していただきながら、進めていければと考えております。

○委員

1年生に聞くより、小学校を経験した5年生に聞く方がベターだと思いますし、中学生についても真ん中の学年を対象にしたということかもしれませんが、色々な意見を聞こうとした際には、幅広く実施した方がいいのではないかと思います。前例は前例としてあったと思いますが、新しいことをしようとするときには、新しい考えで行った方がいいのではないかと思います。ただ、実施数が多くなると手間にもなると思います。保護者へのアンケートも、小学5年生と中学2年生の保護者に実施するということですよね。

○事務局

保護者に関しても同じです。

○委員長

アンケートについては、議題（4）に「アンケートについて」で、また具体的に検討したいと思います。

議題（2）以降に具体的なお話が出てくると思いますので、全体としてはこのような内容で進めさせていただきたいと思います。

○事務局

教育長が公務のため、途中ではありますが退席させていただきます。

（2）岩倉市の教育等を取り巻く状況について

○委員長

議題（2）「岩倉市の教育を取り巻く状況について」事務局から、説明をお願いします。

資料3「岩倉市の教育を取り巻く状況について」事務局より説明

○委員長

ただ今ご説明いただいた内容について、何かご質問などはございませんか。

○副委員長

3点、お聞きしたいことがあります。

1点目、社会教育施設や、社会体育施設の運営体制や、職員体制について教えてください。

2点目、教育と少し離れますが、市民活動センターや市民協働推進センターなどとの関係や関連性を教えていただきたいと思います。

3点目、踏み込み過ぎかもしれませんが、子どもたちの学力や学習状況調査については、どのようにされていくのかをお聞きしたいと思います。現場の先生方もいらっしゃいますし、デリケートな問題だと思いますが、状況や傾向を踏まえながら、どう計画を策定していくのかについてお聞きしたく思います。以上の3点です。

○事務局

1点目について、社会教育施設として、図書館、史跡公園、生涯学習センターがあります。図書館は市の直営です。史跡公園も市の直営ですが、管理はシルバー人材センターにお願いしております。生涯学習センターは、指定管理者である「来未 i w a k u r a」というNPO団体に管理・運営をお願いしております。

スポーツ施設は、総合体育文化センターは指定管理者である民間の団体の「愛知スイミング・光洋ビル管理共同事業体」にお願いしております。それ以外の野寄テニスコート、スポーツ広場、学校運動場照明施設については、市の直営ですが、管理はシルバー人材センターなどにお願いしております。

2点目について、生涯学習センターと市民活動支援センターの利用者の関係ですが、登録をしていれば基本的に施設を利用いただけます。利用の際の減免などの支援も同じような形で受けられる状況になっております。

○事務局

2点目について、市民活動支援センターは、岩倉市の場合、市民プラザという形で行っています。生涯学習センターが以前の公民館から駅東に移ったときに、旧公民館を市民プラザと名称を変え、その1階部分を活動の場にしてあります。5年程経ち、活動の方向性が定まってきました。最初の頃は、やらなくてはいけないことは考えとしてはあったのですが、実際にはなかなか動いていませんでした。運営委託をお願いしている市内のNPO法人「ローカルワイドウェブいわくら」の方々とも積極的に関わりながら、情報提供など、市民活動の支援を行っています。市の担当は、以前は企画課でしたが、現在は協働推進課です。

○事務局

3点目について、全国学力・学習状況調査については、9月に結果が届きました。それを受けて、市の大まかな傾向の分析、各学校の分析、それぞれに取り組みました。特に学校の結果につきましては保護者の方へも報告をしています。また、市の小中学校で授業デザイン研究会を立ち上げ、現職の教育の担当者、教務主任が集まり、情報交換を行ったり、市全域で統一できることがあれば統一できるように取り組んでいます。先日の研究会でも、学力テストの結果を持ち寄って、ある種のフィルターをかけて傾向を分析する作業を行っており、今後も続けていく予定です。

○副委員長

学力テストの結果については、どこまで出せるかデリケートな問題があると思いますが、このような計画を策定する際の一つの資料になると思いますので、開示できる場所は開示していただいで進めていただければと思います。

○事務局

計画の中で、学力テストの状況など、学力については触れざるを得ない項目だと思っております。ただ、実際に目標数値をどうするかについては非常に難しい部分だと思っております。今の学力の向上、確かな学力という表現になるかもしれません。

○副委員長

学習状況調査もされていて、色々な質問をされていると思いますが、その辺りも計画を検討する際に関わってくるかと思いますが、できる限りで結構ですが、開示していただければと思います。

○事務局

全国学力・学習状況調査では、学力だけではなく、生活習慣や自身の考え方、あるいは勉強に対する意欲などの結果も出てくると思います。今回のアンケートの内容と重複する部分があると思います。学力テストは中学3年生と小学6年生に実施しており、今回のアンケートは中学2年生と小学5年生に実施していることから、両方で網羅できる部分もあるのではないかと考えております。

○委員長

先ほど、子どもの図書館の利用が増えているという話がありました。図書館の利用と学力の間に相関関係があると聞いたことがあります。岩倉市の場合も、関係があるかもしれません。アンケートのところでも、どのような生活や暮らしが、よりよい教育につながっていくかを気にしながら進めていければと思います。

私からもお聞きしたいのですが、文化協会や体育協会は、教育委員会に入るのでしょうか。協働推進課なのでしょうか。

○事務局

文化協会や体育協会は教育委員会に入ります。

協働推進課は、市民活動やまちづくりの団体などとの関係がメインになります。例えば、「ローカルワイドウェブいわくら」は、パソコン関係の会社ですが、高齢者向けのパソコンやシニアの生きがいつくり団体でもあり、そのような団体と連携してまちづくりに取り組んでいます。

市役所でも、協働ルールブックの作成や、市民参加条例、自治基本条例の制定をしています。そうした取り組みの中で、市民との協働が強く打ち出されていくことになるかと考えております。

○委員長

先ほど、山車や音楽のまちの話が出ましたが、補足で文化財の保護もなくしてはいけないと思います。振興できていくかは、今後の継承にかかっていると思います。

○事務局

山車については、継承者がなかなかいないということで、ご相談をいただいております。山車は相当古いので、修繕が必要です。岩倉市では、昔はずっと山車曳きをしていたのですが、一度途絶えた時期があり、その間は各町内で保管をしていました。それを市制20周年に合わせて修繕し、山車曳きを再開しました。それから20何年経っています。その都度、細かい修繕はしているのですが、やはり段々、本体部分が痛んできています。そのような状況も考えながら、どう継承していくかを保存会とも話し合いをしている状況です。

○委員長

音楽のまちづくりというのは、どこが中心にされているのですか。柱の1つになってくると思いますが、どうでしょうか。

○事務局

生涯学習課になります。岩倉市の場合、総合計画でも音楽のまちづくりを全面に出しているので、今後、メインになってくると思います。

○事務局

岩倉市は小さなまちのため、大規模にはできませんが、音楽というソフトを使い、文化の振興をしていこうということで、古くから音楽文化振興計画という計画をもとに進めております。先ほどの話の中にもありましたが、小中学校の音楽鑑賞会では、フルオーケストラを目の前で聴くことができ、子どもたちにとっては非常にいい環境です。また、音楽クラブでもプロの方に指導をしていただいております。委員、詳しくご説明いただけますか。

○委員

年12回ですが、こちらで希望したところにプロの方に来ていただいて、直接子どもたちと楽器で交流を図っています。12回来ていただくと、継続的に見ていただけるので、大変ありがたく思っております。生でいい音を聴かせていただいておりますし、しかも無料でしていただいております。

○委員長

子どもたちはそこまで意識がないと思いますが、とても贅沢な環境にありますね。やはり、いいものに触れるということが、子どもには必要だと思えます。素晴らしいと思えます。

岩倉市の教育を取り巻く状況について、何か他にお気づきの点はございませんか。

○事務局

先ほど、人口のところで少しお話ししましたが、岩倉市は近隣市町に比べて外国人の人口の割合が高くなっています。愛知県の製造業の関連だと思えます。この辺りでは、他に小牧市も割合が高いです。外国籍のお子さんに対する指導については、他市よりも力を入れてさせていただいております。委員からはいかがでしょうか。

○委員

2ページの外国人支援の状況ですが、現在は4.4%という割合で、全国第8位です。県内では、第1位が知立市、第2位が小牧市、その次が岩倉市となっています。愛知県は全国の中でも他の県から突出して外国人が多い県です。岩倉市の外国人割合は6%から4.4%に減っているように思えますが、全国的に見ると、ずっと7位、8位にランクしています。ただ、外国人は減ってきているのですが、資料の5ページにあるように、日本語教育が必要な児童生徒は年々増えていき

ています。また、資料から、保護者の世代層が変わってきているのではないかということが考えられます。リーマンショックと東日本大震災の際には、帰国が増えました。これは、どの県・市町でも同じ状況でした。ブラジルなどの南米系の方が、帰国されることが多かったです。帰らずに残った方たちは、アジア系の方が多く、定住するつもりで現在も住んでいらっしゃいます。パキスタン、トルコ、一番多いのがフィリピンで、どんどん増えてきています。国籍は様々なので、外国人と一括りで考えない方がいいと思います。毎年、状況に合わせて改善しながら対応しております。

○委員長

そのような特色のある市だという前提の中での、教育振興基本計画になってくるということですね。

○副委員長

委員長がおっしゃった通り、学校教育の中での外国人の児童生徒の支援は、当然必要だと思いますが、やはり保護者の方への対応も大変重要だと思います。そのような意味で、図書館の多文化サービスも重要になってくると思います。図書館では、そのような文化などを意識して選書を行っていますでしょうか。

○事務局

今のところ、そのような活発な活動に至っていないのが現状です。読み聞かせなどで、小さいうちから本に親んでもらうような活動に力を入れています。

○委員

特徴がある個性的な学校では、読書指導員の方がその学校に応じた本を選書して入れる活動がされています。

○事務局

スポーツ少年団について、先ほど700人くらいの会員数というお話がありましたが、県内で見ても人口に対しての割合が非常に高くなっています。尾張でも、人数的には春日井市の次くらいの規模となっています。他の市町で、スポーツ少年団がないところもありますが、その辺りが岩倉市の特徴ではないかと思います。

○委員長

外国籍の市民数が他の市町よりも突出しているという状況の中で、色々な活動を上手く共生的に進めていくことがこれからの課題だと思います。定住される方が増えてきているというお話もありましたが、そのような形になってきたのなら、市民として一緒になって色々な活動ができていくのではないかと思います。

また、本日は、コンサルの方も来られています。皆さまの意見を計画に反映するためには、市民としては当たり前と思っていることも、ご提案やご発言をいただいた方がいい面もあると思い

ます。細かいことでも、お気づきの点があれば、ご発言をお願いいたします。

スポーツの件は、先ほど生涯学習課からも出ましたが、何かご意見はありますでしょうか。

○委員

スポーツ少年団では、野球で数名、外国籍のお子さんが入団され、一緒にプレーをしております。女子の野球選手もいます。スポーツ少年団の活動は、岩倉市は愛知県内でもトップクラスだろうと思います。学校の施設も色々とお借りし、先生方も精力的に対応して下さるので、非常にいい環境で活動をさせてもらっております。

山車の件ですが、総合計画の中でも3町にこだわらず、岩倉市の文化財として考えていくべきだと思います。広く担ぎ手を探し、体験してもらおうというところもPRしながら、つないでいきたいと思います。私も担ぎ方をしておりましたし、関わっている人間も多いので、貴重な文化財として、お金はかかりますが、何としてもつないでいきたいと思っております。

○委員

学校施設をお借りすることができ、非常にありがたいのですが、学校やスポーツ広場の駐車場数が足りていません。畑の前に停めた方がいて、迷惑をかけたこともありました。色々なところで、駐車場の問題は話に出ます。避けて通れないと思います。スポーツをする場所はできたのですが、駐車場が足りないということが問題です。

○事務局

スポーツに限らず、公共施設全般にわたり、駐車場まで満足していただけるスペースを確保することが非常に困難な状況です。どこでも、そのようなお話を聞きます。土地が出てくれば、開発のしようもあるのですが、購入してまでというのは、現実的には難しい問題です。ただ、ご意見としては、市でも把握しております。

○委員長

高齢化してくると、運転も危なくなるので、公共交通機関やタクシーなどを活用できるかということが検討事項になるかもしれません。

○事務局

巡回バスも最近始めましたので、そちらもご利用いただきたく思います。

○委員長

巡回バスと施設が上手くリンクし、学校が上手くその中に入っていければと思います。学習と市のインフラとの関係性をバラバラにしてしまうと、どうしてもちぐはぐな面が出てきてしまうと思います。だから、車で行かねばならないとなってしまいます。常に他部局との調整が重要になってくるかと思っています。最初に、副委員長からもご指摘がありましたように、事務局でもぜひ気かけながら進めていただきたいと思います。

(3) 策定スケジュール

○委員長

では、議題(3)「策定スケジュール」について、事務局から説明をお願いいたします。

資料4「策定スケジュール」について事務局より説明

○委員長

部会は2つですか。

○事務局

2つを予定しています。来年度、生涯学習と学校教育という形で部会を開催させていただき、これからアンケートを行い、結果の集計と団体ヒアリングなどを行いながら、課題を抽出します。それに対する皆さまのご意見をお伺いして取りまとめ、課題解決、今後の方向性などをまとめた形で、来年度の全体の会議で皆さまにお示しさせていただきます。そこで両分野の専門的なご意見をお聞きしながら、詳細を詰めていきたいと考えております。そして、最後に全体で集まっていただき、両分野のすり合わせをしながら形にしていきたいと考えております。

○委員長

何かご意見はございませんか。途中で状況が変わってきた際には、違ってくることもあるかもしれませんが、案として進めさせていただきたいと思います。

(4) アンケートについて

○委員長

では、議題(4)「アンケート」について、事務局から説明をお願いいたします。

資料5-1「市民アンケート(案)」、資料5-2「児童生徒向けアンケート(案)」、資料5-3「保護者向けアンケート(案)」について事務局より説明

○委員長

3種類とも、すでに事務局で非常に練られた内容だと思います。スケジュールのこともあり、今回早めに集約し、来年度の検討に生かしたいと考えております。先ほど、アンケートを全員にというご意見もありましたが、予算の問題もあると思いますが、どうでしょうか。

○事務局

確かに予算の問題もありますが、先ほども申しましたように学力テストも生活実態調査もあり、中3と小6である程度拾えると考えています。保護者の方に関しては、市民意向調査という無作為抽出のアンケートがあり、そこから他の学年の保護者の意見も入ってくると思います。市民アンケートと、小5と中2というところで、意見は反映できるのではないかと考えております。

○委員

中学校2年生は、資料を見る限り一番生徒数が少なく、5年生はそれよりは多いですが、それでも少ない方です。人数の少ない学年が対象でいいのかと疑問に思いました。

それと、もう1点お聞きしたいのですが、外国籍の保護者の方は、このアンケートを理解できるのでしょうか。児童は学校で勉強もしているので分かると思いますが、保護者はどうでしょうか。

○委員

外国籍の保護者に対しては、ポルトガル語版、英語版、中国語版できればフィリピン語版を用意して間に合わせるようにします。

例えば問25の「豊かな自然環境や田園風景」「山車」「固有の伝統文化」「遺跡や史跡」などの言葉が出てきますが、これらをどのように訳すかが難しいと思います。また、低学年には理解が難しいのではないかと思います。どう対応していくかを、検討しながら進めていきたいと思えます。

○事務局

別のアンケートを実施したときもそうでしたが、郵送回収だと、なかなか回収率が上がりません。アンケートの内容が全て同じではなくてもいいと思いますので、簡単な言い回しにするなどで、対応していきたいと考えています。ただ、保護者の方に対しては、直接お話を聞いた方がいいのではないかと考えています。ヒアリングなどの機会を設けながら、対応していきたいと思えます。

○委員

児童や生徒は、先生が見ると思えば、先生が好きではないとか、担任の先生が嫌いとかの理由から、正直に書けないのではないかと思います。子どもたちにも、先生は見ないということがはっきりと分かるように回収をしなければならないと思います。保護者の方も、先生が確認しないということが分かれば、正直に答えていただけるのではないかと思います。

○事務局

アンケートは、封筒に入れて回収する予定です。アンケートを書いてもらう前にも、事前にきちんと説明をさせていただくつもりです。別の調査でも、児童や生徒にそのようなアンケートを実施したことはあるので、大丈夫だと思います。

○委員

自分の携わっているスポーツ少年団に関してですが、子どもに関するアンケートの問18に「これから、やってみたいスポーツはありますか」とありますが、2020年に東京オリンピックが行われます。その際に野球とソフトボールが一緒に行われるので、ソフトボールも野球と同じスポーツとして載せていただければと思います。

○事務局

ソフトボールの件は、追加させていただきます。

今のような修正でしたら事務局で対応できますので、印刷の関係上、今週中くらいに学校教育課までお伝えいただければと思います。対応できるかどうかは別として、検討させていただきたいと思います。

○副委員長

3点、申し上げます。

1点目は、住民の方へのアンケートの回収率を上げていただきたいと思います。児童・生徒と保護者のアンケートは、学校で回収するため、かなり回収率がいいと思いますが、住民の方へのアンケートの回収率が低いと、意見が反映されないということになってしまいます。自治体によっては、回収期限の前にアンケートを提出してくださいというハガキを送ることで回収率を上げているところもあります。可能であれば、そのようなこともやっていただきたいと思います。

2点目、住民向けアンケートの3ページで、満足度や重要度を聞くCS調査がありますが、重要度には「わからない」という選択肢をつくらないのでしょうか。おそらくマトリックスにして満足度は低いけど、やらなければならない重要度は高いというような分析をされると思うのですが、ご確認をお願いします。

3点目、7ページに「次のような生涯学習活動をしたことがありますか」という問がありますが、逆に言えば必要度や重要度のようなものは聞かないのでしょうか。スポーツについては、どのような取り組みが必要かを聞いていますが、生涯学習については先ほどのCSと同じで、このようなことについて生涯学習をする必要があるかという必要度や、その逆を見ることも必要だと思うのですが、いかがでしょうか。現状と必要度の差を見る質問があればと思いました。

○事務局

1点目の市民対象のアンケートについては、学校教育などかなり限定された内容ですので、書ききれない、回答しきれない方もいらっしゃることを考え、「わからない」という項目を入れました。ただ、アンケートの集計の際には、「わからない」という回答は点数的に削除して集計されると思います。

2点目の回収率について、過去、5年に1度実施している市民意向調査を見ても、岩倉市の回収率は比較的高く、前回は55%、前々回は65%でした。リマインドハガキを出すかどうかという問題もありますが、経費の部分と、アンケートを提出してくれた方にもハガキが送られてしまうことを考えると、今のところは考えておりません。ただ、何らかの形での対応を考えたいと思います。

3点目、生涯学習に関しては、問23で市としての取り組みについてお聞きしています。こうしたところから導きだせないかと考えています。

○副委員長

施策としては問23で聞けると思うのですが、個人的な学習として、自分は今これをしている、でもこのようなことをやる必要があるという、内容の部分でのギャップのようなことを聞けない

かと思いました。例えば、やってないけれど、やる必要があるという値が高い場合は、ニーズがあるということなので、重点的に支援される場合もあります。

○事務局

1つ項目を追加する程度で、そのような集計が得られないかを一度検討させていただきたいと思えます。

○委員

上の娘は、中学でブラスバンドをしており、今日いらっしゃる熊木先生にも大変お世話になっております。先ほど、音楽のまちの話がありましたが、それなら児童・生徒のアンケートにスポーツだけではなく、文化的なものについての質問を入れてはどうかと思いました。

○事務局

スペース的な都合もあるので、検討させてください。こちら側の思いだけではなく、子どもたちのことが把握できるよう考えていきたいと思えます。

○委員長

回収率はいいのではないという予測ですが、できるだけたくさんの方が回答が集まればと思えます。「岩倉市に住み続けたいと思えますか」という質問には、「できれば住み続けたくない」などの回答もあるので、市としてもかなりチャレンジだと思えますが、どのような結果が出て覚悟して受け止めていただければと思えます。

他はいかがでしょうか。文言などであれば、今週中なら修正が可能かもしれませんので、事務局までお伝えください。次年度へ向けての資料という形です。本当の計画は来年度の作業になりますので、アンケートを実施していただいて、結果を見て検討していければと思えます。

以上で、本日の議題は終了しましたので、事務局へお返ししたいと思います。

その他

○事務局

次回の会議についてですが、アンケート調査や団体ヒアリングの報告、そこから出てきた岩倉市の課題についての意見交換などを行いたいと考えております。開催日については、作業の進み具合もあると思えますが、2月16日（火）午後2時からで、お願いをしたいと思っております。

以上で本日の会議を閉会させていただきます。長時間にわたってご協議いただき、ありがとうございました。

正午 閉会